

## 「私の父の仕事」

椋本 優加

私の父は臨床工学技士をしています。臨床工学技士は認知度が低く、友達に「お父さんなんの仕事してるの。」と聞かれて答えると不思議そうな顔をされることがほとんどです。でも私は人知れず患者さんを救うために闘っている父をカッコいいと思っています。

父は日頃、人工透析装置や、呼吸器など様々な医療機器を介して医師のサポートをしたり、睡眠時間も不規則で仕事場に泊まって次の日朝に帰ってくることもあります。他にも学会や試験に行ったりと忙がしそうにしていました。最近は新型コロナウイルスで入院する患者さんが大幅に増えて、泊まりの仕事や学会があった時よりも忙がしそうにしています。毎晩疲れて帰ってきても必ず毎日仕事に行っています。私達家族も、新型コロナウイルスにかからないか不安ですが、父も不安だと思います。なぜそこまで仕事を頑張るのか気になったので聞いてみると、「病院で困っている人をまたせるわけにはいかないから」と答えてくれました。私は責任を持って毎日患者さんと向き合う父はカッコいいと思えました。

臨床工学技士は毎日がとても忙がしく、患者さんの目にとまらない仕事だけど他の医療従事者の人達や患者さんに対して役に立てる仕事だと父は教えてくれました。私は特に、「こうなりたい」というはっきりした将来像は今まで無かったのですが父の仕事の話を聞いて、臨床工学技士という仕事は患者さんや他の医療従事者の方の役に立てるということに気付きました。もし将来臨床工学技士になれたとしたら、父のような責任感を持つことを忘れずに多くの人の役に立てる人間になりたいと思います。